

訪日外国人客（インバウンド）の急増に沸いた2015年の航空業界。原油安も重なり国内航空大手の業績は好調だ。ただ、11月に起きた仏同時テロなどの影響で一部では旅行を控える動きもある。航空需要の見通しについて、ANAホールディングスの片野坂真哉社長に聞いた。

——今年はインバウンド

訪日外国人客の勢い どこまで

ANAホールディングス社長

片野坂 真哉氏



かたのさか・しんや 1979年（昭和54年）東大法卒、全日本空輸入社。2009年取締役、線開設にも意欲を示す。60歳。

食・文化・家電…拡大に自信

需要が急拡大しました。この勢いは16年も続きますか。

「間違いなく続く。これは期待というよりも確信に近い。訪日客は美しい景色や食、文化、電化製品など幅広い『ジャパンブランド』循環が生まれている」

「中国経済の失速で訪日客が減ると心配する向きもあるが、当社はそうした悲観的な考えを持っていない。その証拠に、中国における11番目の就航都市として、16年4月には成田―武蔵野線を開設する。訪日需要

「中国経済の失速で訪日客が減ると心配する向きもあるが、当社はそうした悲観的な考えを持っていない。その証拠に、中国における11番目の就航都市として、16年4月には成田―武蔵野線を開設する。訪日需要

「中国経済の失速で訪日客が減ると心配する向きもあるが、当社はそうした悲観的な考えを持っていない。その証拠に、中国における11番目の就航都市として、16年4月には成田―武蔵野線を開設する。訪日需要

聞き手から一言

コスト削減で危機に備えを

ANAホールディングスは2016年は国際線参入30年の節目の年。この間、国際線の旅客輸送実績で日本航空を上回り、名実共に日本最大の航空会社に躍進した。16年3月期の連結決算は経常最高益となる見込みで、これまでの拡大戦略は奏功している。一方で経営の軸足が国内線から国際線に移り、テロの脅威や疫病の流行といったリスクに収益を左右されやすい構造になりつつあるのも事実。好調な旅客需要が暗転する可能性は拭いきれない。コスト削減の手を緩めないことが、危機への備えとなる。

（白石武志）

「11月のパリ同時テロの発生後、それまで8割程度あったパリ路線の搭乗率は従来の半分の水準に落ちた。10月に新規就航したベールギー路線も影響を受けて、16年4月には成田―武蔵野線を開設する。訪日需要